

する」というのが経済学の原則ですが、それに疑問を持ち始めたのです。そこで哲学を学び始めて、いわゆる悲観哲学を勉強して、たまたまショーベンハウエルの『幸福論』を読んだのです。

ショーベンハウエルは、その中で、人間は快よりも、不快を感じるこのほうが多い。何故かという、欲望が充足されないことの方が多からだ。すると、欲望を抑えなければならぬが、それを突き詰めると、結局は死ぬことになるんですね。彼の結論では死んだ方が幸せだということになる。それで、勇気ある若者は自殺しなさいと。それで、私はその通りかなと思って、近所で睡眠薬を買って来てそれを大量に飲んだのです。ところが、2〜

中村大風は、明治9年生まれで、満州で軍事探偵として活躍しました。帰国後、肺結核となり、そのために、それまで強かった心が、大変弱くなってしまいました。何とか病を治すことができなくても、心だけは強くしたいと、アメリカに行って医学を学び、さらに、道を求めて、ヨーロッパにも渡ったのですが、どうしても答えがでなかったのです。絶望のなかで帰国する途中に、たまたまヨガの導師に出会い、俺についてこいと言われてインドに行くんです。中村大風は、そこでカルマヨガを学び、日本へ帰って来て、それを基礎として、自分なりに発展させて、この心身統一法を編み出したのです。修行を通して、結核も治っていたんですね。



▲左から：ハワイの天風会会員、藤田夫妻、南方さん、村里さん

のですが、毎朝、家で体操をしていたら、自然に一人、二人と集まって来られて。今は毎朝7時から、サッカーグラウンドに10人ぐらいが集まって、40分ほど体操をしています。私はがハワイ島に毎年、夏と冬と2カ月ずつ滞在しています。その間は日曜毎に、日曜修行会(8-12時)をやっています。

ホノルルの修行会はどういうきっかけで始められたのでしょうか。

ホノルルの修行会は、天風会の尾身幸次理事長がハワイでの開催を希望したのがきっかけです。もともと天風会では、中村大風先生の心身統一法を将来は世界に広め

て、この日本を足だけで歩いたら、何を感じるだろうという思いもありました。

修行会では、すべての人が幸せになるための方法を具体的に学んでもらっています。世界には幸せを追求するために様々な宗教や哲学がありますが、天風会の特徴は、お金を払ったり、お祈りをしたりしなくても、誰もが日常的に簡単に自分で実践できることなのです。

毎回来られる方もおられますが、いつも基本から始めていますので、初めての方も気軽に参加することができます。この修行会を通して、ハワイに任んでおられる少しでも多くの方に、幸せになるための方法を学んでいただきたいと思っています。



いのちの豊かさを伝えたい

住宅づくりと政治活動、そしてNPO設立

生い立ちを教えてください。

昭和26年に、埼玉県の飯能で生まれました。川越高校を卒業後、東海大学の建築に進みまして、卒業後は3年ほど設計事務所に勤めていました。その後は、もともと父が材木を扱っていたので、そこに戻って、建築部門を担当していました。30才になった時に、経営を引き継ぐことにしましたので、実際には30才が経営者としての私のスタートです。

会社は今年で50周年ですが、「設計と施行のできる工務店」という発想でやっています。当初はプレハブメーカーの下請けをやっていたのですが、今ではお客様のオーダーメイドしかやりません。お客様に会えない仕事はしないというのが当社の方針です。

主に住宅を手がけておられるのですか。

木造住宅では、国交省から「日本の29社」に選ばれたり、福田総理の時の政策であった「200年住宅」にも応募して選ばれて、補助金をいただいたりしました。純粋な木造住宅ですが、一番特徴的なのは、埼玉県地の元の山の木を使って家を建てようという運動です。お客様と一緒に山に行って、樹齢80年か

というのはいのちですから、それに触れながら生活するというのは、心豊かになれることなのです。木は、草が大きくなって堅くなったものです。量は植物で、とても気持ちいいですね。その中にいるというのはとても幸せなんです。

もちろん耐震建築で、木造でも強いということ、実証もできています。

市議会議員もされていたと伺いましたが。

42才の時から、市議会議員を3期務めました。政治の世界というのは、どろどろしていて、あまり私には合わないと思ったのですが、地域から推されて立候補したのです。3期終わって54才になったときに、そこは私の居場所ではないと思ってやめました。当落は問題なかったのですが、いのちの時間を大切にしたいと思ったのです。

それからNPOを作り、その後、60才になる前に徒歩で日本縦断をやりました。それが契機になって、番頭さんにビジネスを譲りました。半年も留守にするのに社長でいてはいけないと思ったのです。

そこで定款も変えて、実質的には彼が後

公益財団法人 天風会理事/東京賛助会副代表
(一級建築士、元飯能市市議会議員、NPO西川森の市場設立)

村里 泰由さん

疑いから始まった天風会とのかかわり

天風会との出会いはどういうきっかけですか。

天風会との出会いは、35才の時です。当時ノイローゼ気味で、自立神経失調症、今でいうとパニック障害ですね。たまたま当社に飯能市の公害係が来て、うちの焼却炉の煙が近所に迷惑をかけているらしいとのこと、寸法を測りに来たのです。床面積が3平米以上は届け出をしないといけないのですが、それよりも小さいものを使っていたので、問題はなかったのです。でも、迷惑をかけているのがとてもいやで、ふらっとし始めて、過呼吸でその後2年くらいおかしかったんです。

病院に行ってもわからなくて、あらゆる医者を回ったんですが、結局心を病んでいると言われました。その頃、たまたま川越の人で天風会の誦句集を持っていらっしゃる方がいて、その中に色々な言葉があって、これを見てびっくりした。書いた人は勘違いしていると思ったんです。どちらかというと疑念です。こういうことができるんだろうかと思ひ、ちょっと貸して下さいと言って、うちでコピーして、それを手帳に貼り付けて、胸に入れて持っていました。今から思うと、これが、中村大風の言霊(ことだま)で、その瞬間がご縁だったんでしょうね。

疑念があったけど気になった?

読んでみると宇宙霊などという言葉が出てくる。「おかしいじゃないか」と思ひながらも、どうも気になるので、天風会に電話してみました。場所を伺ったら護国寺だということ。それでまた、「やっぱり宗教じゃないか、おかしい」と思ひました。

天風会は護国寺を借りていたんですね。それでもそこに出かけて、天風会の本を3冊購入して自宅に持ち帰って読み始めていくうちに、まさに目からウロコだったんです。

それで天風会にかかわるようになられ

すが、それで翌年、もう一回確認しようと思ひ、神戸、関西地区、東京都の修練会に3つに続けて出てみたんですね。これは本物であると確信したのはその頃です。昭和61年、26年前です。

パニック発作はそれで治られたのですか。

パニック発作は、入ったらすぐに治ったわけではなかったですね。2年ぐらいかかったと思います。ある時、「私は治るのではなく、変わっていくんだ、薄紙をはがすように、一枚一枚変わっていくんだ」と決めたんです。それを決めた瞬間から治り始めました。その時には心が変わったのが、意識できました。

その後はずっと天風会に関わっておられるのですか。

天風哲学は、普通は3年ぐらいて理論上はわかって、理解した人はそれでゴールになるんです。確証は、そこからスタートするんですけど。私も3年ぐらいたった時に、もうあまり頑張らなくていいかなと思った時期があったんです。ところがちょうどその頃に、輔導というのをやりなさいと、役目を頂いたんです。その後は主任輔導となって、300人ぐらいの方々の夏のイベントの現場リーダーを何年かやらせていただいて、その後は講師となりました。多分私はまだ足りないからもっとやってごらんというサインだったのかもしれないです。

どんな活動をされているのですか。

私は東京賛助会の副代表ですが、毎週日曜日に朝8時から日曜修練会というのをやっています。これには100名ちょっとが集まって、体操、呼吸法、座禅を組んでリーダーのお話を伺ったりしています。また、東京では毎月講習会もしています。ここは自力を教えるところですが、悩んでいる方は、40代から50代の男性が圧倒的に多いです。天風会は、学びの場ではあるけど、理解す

天風哲学を試すために徒歩で日本縦断を決行

日本縦断についてお聞かせ下さい。

一昨年の5月から11月まで、日本列島を縦断しました。埼玉から青森、函館から宗谷岬。沖縄本島、鹿児島から門司、下関から山陽道、近畿、そして東海道を帰ってきました。厳密にいうと九州が終わってから沖縄を歩きました。沖縄で天風会の代表をしている人と約束して、彼女は車椅子に乗っていたのですが、絶対に先生と歩きますというので、準備ができるのを待っていたのです。それで、門司まで終わってから沖縄まで行って一緒に歩きました。彼女は5000歩も歩きましたよ。お互いに約束を守れて、よかったです。

きっかけは何だったのでしょうか。

単純なきっかけは、私が市議会議員をしていた時に、石川文洋さんという写真家が、北海道から沖縄まで歩くとおっしゃったのを聞いたことです。それが心に残って、いつの間にか60才になる前に、こういうことをやってみたいと思うようになったんです。もうひとつは、天風会の3つの密法を試したかったんです。具体的には、クンバハカという体勢で歩くこと、安定打座で歩く心持ち、それと活力吸収法の3つですね。そし

て、この日本を足だけで歩いたら、何を感じるだろうという思いもありました。

縦断を終えられて、どう感じられましたか。

終わった時には、よかったなと思いました。147日かけて、3300キロ歩きましたが、着いた時には、すごい感動を感じるわけではなかった。歩くことが、もう生活になっていたんです。もう明日は歩かなくていいんだとは思ったけれど、感涙にむせぶということはありませんでした。楽しかったから。

それは修行としてされたのですか。

修行というよりも実験的な動機ですね。私は天風会の理論にも常にクエスチョンを持ち続けているから、そう言う意味でも宗教とは違います。苦行じゃないから、だめだと思ったこともありませんでした。雨がふって歩きたくないことはありましたけど。大体毎日25キロ歩いて泊まる。誦句を読みながら歩いたんです。実はまだ足がしびれています。でも、全行程の4割ちょっとは、現地に誰かが応援に来てくれたんです。一緒に歩いたり、夜一緒に飲んだり。こっちも嬉しいですからね。だから楽しくて、つらいということはありません。

* * * * *

本物の豊かさは何なのかを伝えたい

ハワイの修行会に来られたのは何回目?

実は、初めてなんです。ハワイはすごいところですね。この場所自体がエネルギーを持っていて、気があるんでしょうね。それに、差別がないのが素晴らしい。昨日お会いした運転手の人からも、全く人種差別がないと聞きました。

日本は今大変ですね。

日本は今、試練を迎えています。震災後は政治も不安定で、明らかに過渡期なんですけど、世界で一番はじめに、右肩下がりで豊かになれる方法を模索しているのだと思います。日本は、それを通して学んだことを世界に発信するべきで、そういう国民性を持っていると思うんです。

右肩下がりで豊かになれる?

豊かさとは何かというのは、それをどうつかまえるかなのです。電気がなくちゃいけないのではなくて、不便でも豊かさにつながるということ。便利さは、必ずしも豊かさではない。何をどうつかまえるかわかりません。

は帰るんだから、地球にいる間はお互いに幸せに過ごしたい。ここに居る間に、もっと豊かでわくわくするような時間を過ごすにはどうしたらいいかを考えないといけない。お金じゃない何かがあるんだと思います。ですから、これからどうしたらいいのかというのは、日本が一番先に気付くんじゃないかと思っています。大切なのは、この中で何を築くかなんです。

そのために何かされているのですか。

川上から川下まで、山を持っている人、伐採する人、工務店、市場、材木店や、設計士、工務店、これでNPOをつくったんです。地元の木で家を作る運動です。森の中にご案内して、この木で、家が建てるんですよと説明する。山の中にいると何故気持ちがいいかも説明する。それが豊かさにつながっていくんです。今まだ模索中ですが、それを通して、皆さんに本物の豊かさは何なのかを伝えたいと思っています。それは天風会の教えとも一致しています。天風会の目的は、元気に幸せに生きるための方法を学ぶことです。